

生活指導だより

西尾市立
一色中部小学校
生徒指導部
11月号

学校では、先日ストーブを配置し、いよいよ冬の準備がはじまっています。朝夕の冷え込みも厳しくなってきました。そんな中でも子どもたちは毎日元気に過ごしています。

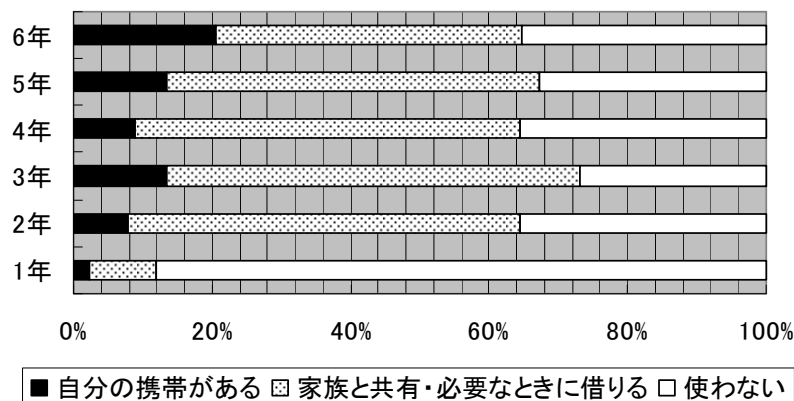
さて、先日ある保護者の方から「うちの子が携帯電話をほしがって・・・みんな持っているって言うんです。本当にみんな持っているのでしょうか。」という話題になりました。学校として、これまで、担任が個々に子どもたちに聞くことはあっても、学校全体で携帯電話についての実態調査をしたことはありませんでした。そこで、早速子どもたちに聞いてみることにしました。

本号は、この調査結果をもとに、一色中部小学校の子どもたちと携帯電話に関する話題でお送りしたいと思います。

1 どれくらいの子どもたちが持っているの？

資料 1 携帯電話を持っている児童の割合

資料1は、携帯電話を持っている児童の割合です。学年が上がるにつれて、自分用の者を持っているという子どもの割合が増加しています。ただ、一番割合が多い6年生でも、20%です。決して「みんなが持っている」という状態ではありません。



ただ、家族と共有していたり、必要なときに家族のものを借りるという子どもも含めると、2年生以上では約2 / 3の子どもたちが携帯電話を使用しています。こうした、家族の管理下で使っている時こそ、携帯電話の使い方や注意すべき点について、学ばせるチャンスだと思います。

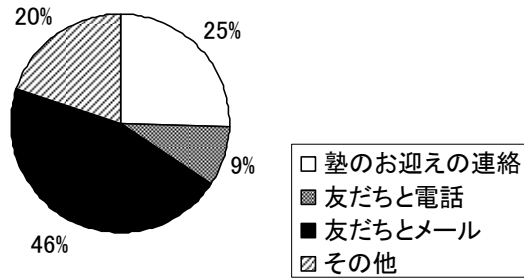
2 子どもたちはどんな使い方をしているの？

次に、自分用の携帯電話を持っている子に電話の主な使い道を聞いてみました（資料2）。多くの子どもは、塾などのお迎えのための、保護者との連絡用として使っていることがわかりました。

ただ、学年が進むにつれて、友だちとのメールや電話で使用する割合が増えてきていることがわかりました。また、その他の中にネットゲームと答えた子も、少数ながらもいました。

資料2 携帯電話の主な使い道

友だちとの電話やメール、ネットゲームなどは、保護者の方々が携帯電話を持たせようとした当初の理由とは違う使われ方ではないでしょうか。



3 家庭教育セミナー『ケータイ安全教室』より

最近の携帯電話（ケータイ）には子どもたちを守る様々な機能があります。しかし、どんなに優れた機能があっても、使う側の心がけ次第で、ケータイは便利なものにも、危険なものにもなるのです。大切なのは機能を使いこなすことではなく、子どもたちとケータイについてしっかり話し合い、ご家庭の環境や使い方に合わせたルールづくりをすることです。

話し合う内容ルールの内容例

- 家に帰ったらケータイにさわらない
- 自分の部屋にケータイを持ち込まない
- 夜〇時を過ぎたらケータイを使わない
- ケータイを持つ理由を確認する
- 1日にケータイを使っていいのは〇〇分までにする
- 1日の使用限度について
- メール・通話の相手を保護者が認識していること
- 知らない番号からの電話には出ない、知らない人とメールをしない
- ネット上に自分や友達の個人情報を書き込まない
- ネット上に人の悪口やウソを書かない



4 携帯電話所持のリスクについて

中学校の生徒指導の場面で、よく携帯電話のことが話題になります。「子どもにせがまれて、持たせたのはいいが、持たせたばかりにいろいろなトラブルが起き、叱ることが増えてしまった。」そう反省する保護者の方が少なくないそうです。

携帯電話を持つ、持たないというのは、それぞれ家庭の事情であって、決して「みんなが持っているから」ではありません。今後、必ずやってくる「携帯電話を買ってほしい」という子どもたちの要求にどう答え、持たざるを得なくなったときに、どんなルール作りをしていくべきか……。また、持っていないからこそ、また、携帯電話は持っているが、まだ保護者の言うことはしっかりきけるうちに、家庭での指導のためのしっかりとした知識を私たち大人がもたなければいけないと思います。